



個人懇談&ふれあいの部屋・進級説明会

＜個人懇談（希望者のみ）＞

期間：2月6日（月）～2月24日（金）まで
※別紙で懇談時間や場所はお知らせします

＜ふれあいの部屋または、進級説明会＞

0歳児こあら組：2月21日（火）
2歳児きりん組：2月22日（水）
1歳児こじか組：2月24日（金）

時間：一部 16：00～
二部 17：00～

※0歳児こあら組は二部17：00～のみです

ご都合が良い時間帯にお越しください。



2歳児きりん組さんは、制服の採寸や幼児教育無償化に伴う給食費の徴収について、説明会をします。また、第二みみょうこども園、現年少担当職員による“あか組さんってどんなところ？”など質問できる機会も計画中です。ぜひ、ご参加ください。



119番通報

できますか？



消さないで

あなたの心の

注意の火

広島市南消防署
警防課 救助係

＜やりたいこといっぱい！楽しい経験と豊かなあそび＞

2月に入りましたが、気温はまだ低く、寒い日も続いています。先日の雪の日は、子どもたちは空から降ってくる雪に手を伸ばしたり、園庭のさやえんどうの葉に積もった雪を触ったり、感触を確かめていました。寒ければ寒いように、子どもたちは新しい発見や感動を見つけ、毎日を楽しんで過ごしています。

そんな寒い日のことです。2歳児クラスの子もたちが「今日は寒いね」、「雪が降ってるね」、「お外がまっしろだったよ」など話をしているうちに、Aくんが「寒い日はね、お水が氷に変身するんだって」と教えてくれました。そこで、みんなで透明の容器や卵パック、バケツにお水を溜めて次の日、どうなっているか見てみることにしました。更に、子どもたちと一緒に「ちちんぷいぷいのぷーい！」と魔法もかけ、明日を心待ちにすることになりました。その日は、お迎えの時間になると、子どもたちはみんなで魔法をかけたお水をお家の方と一緒にのぞいてみて、「明日、どうなっているかな？」「魔法のお水を入れたんだよ」など、親子で対話する姿がたくさん見られました。

翌朝、なんと子どもたちが魔法をかけた特別なお水がカチカチの氷に大変身していました。目をキラキラさせて、その氷を手に取り、匂ったり、氷の気泡をじっと見つめてみたり、温かい手で溶けていく不思議さを体験するなど、子どもたちの興味・関心は高まるばかりです。

Aくんのつぶやきからあそびが深まり、子どもたちが夢中になってあそび込み、試す姿はまるで小さな科学者のようで、側にいた保育士も子どもたちの驚きや感動する様子を見て、自分のことのように喜んでいました。

驚きや感動は子どもたちの探求心や好奇心を高め、意欲ややる気を育てます。赤ちゃんの頃から楽しい経験や豊かなあそび、ことに「何かをやりたい」という目的を持って過ごした体験や経験は、子どもたちの心を豊かにするとともに、3歳からの知的な成長に大きな影響を与えます。

子ども同士の学び合いも大切です。現在2歳児さんは、大好きな友だちと一緒に家庭におけるお父さん・お母さんの様子などをじっくり観察していて、模倣しながら生活を再現するごっこあそびなどもブーム（流行）となっています。

もちろん、これには子どもたちの気持ちを察する大人の存在も大切です。私たちは子どもたちのつぶやきや思いを丁寧に受け止め、やりとりを繰り返しながら、楽しさをたくさん共有し、信頼できる存在でありたいと思います。

みみょう保育園の子どもたちは、ご家庭でしっかり愛されているので、“人と関わることが大好き”です。これからも仲間を大切に、相手に対して“感謝と思いやり”の心を持ち、卒園する頃までには、「今何をしたら良いか」が自分で判断できる子に育ててほしいと願っているところです。

2月は個人懇談会も予定しています。保護者のみなさんと、園やご家庭での様子をお話したり、生活習慣を振り返るなど、お子さんの育ちが共有できる良い機会になればと思っています。短い時間ですが、ぜひご参加ください。



みみょう保育園主任

卵パックで
出来た氷だよ
形も面白い！

子育て応援コラム

「6つになった」

1つのときは なにもかも はじめてだった。
2つのときは ほくはまるっきりしんまいだった。
3つのとき ほくはやっとぼくになった。
4つのとき ほくはおおきくなりたかった。
5つのとき なにからなにまでおもしろかった。
今は6つで ほくはありったけおりこうです。
だから いつまでも 6つでいたいと ほくはおもいます。

くまのプーさんの原作者 AAミルンの詩
(訳 周郷 博)

0歳、初めての世界に飛び出して、1歳、見るものする事すべてが初めて。2歳の頃は何をしてもたどたどしく、3歳では自我が大きく膨らんで「ぼくになった」と自覚します。4歳は、目の前の世界がますます広がり年長児にあこがれを抱き、「あんなふうになりたい」「おおきくなりたい」と思い、園生活を自分のものに始めた5歳は「なにからなにまでおもしろかった」と。そして仕上げの6歳は、自分は“おりこう”と自信に満ちています。

このように子どもは成長していきます。未来を生きる子どもたちの成長を促し支える場が園、そして温かい家庭です。

